



松梅タイムズ

学校教育目標 心と松梅を担う心身共に調和のとれた子どもの育成

令和5年9月29日（金）発行
第12号
文責 校長 澁谷 健

令和5年度佐賀市コミュニティスクール認定

子どもに気付かせたい、分からせたいときにどう接したらいいのでしょうか？

思春期、反抗期、多感な時期、気難しい時期、この時期を疾風怒濤の時代とドイツでは呼んでいるそうです。小学生の高学年から高校生くらいまでの間はこの時期に差し掛かっています。「親と一言も話さない」、「帰ってきたら部屋に閉じこもる」、「何を言っても反発ばかり」、「文句しか言わない」、「ウザい」、「知らんし」・・・かつて、私も二人の娘の態度に悩まされました。（もう成人していますが）保護者の皆様も、お子さまの扱いに苦慮されている方も多いと思います。全く反抗することもなく、成長してしまう場合もありますが、子どもの時期には心の中はかなり葛藤し、揺れ動いていたはずで、親は子どもにどう接し、声をかけたらいいか、これは子育ての永遠の課題かもしれません。子どもは子どもで、「親に勝とう」「大人を乗り越えよう」としてきますから、厄介で大変ですね。

ではどうしたらよいでしょう。「よくできたね。こうするともっとうまくいくよ。」というポジティブ（プラス方面）からの声掛け。「そんな横着をしていたら、痛い目にあうぞ」（以前の松梅タイムズで「失敗するチャンス」を奪わないことが大切と書きましたが、命に関わるとか犯罪に巻き込まれるような失敗はさせてはいけません。）というネガティブ（マイナス方面）からの声掛け、片方だけが効果的とは言えません。時には危険回避も含めて、マイナス面からのアプローチも必要でしょうし、子どもが落ち込んでいるときは勇気づけるためにプラス面からの「ほめる」アプローチも必要です。

押したり、引いたり、要はバランスです。その子にとってちょうどいい「塩梅」を探ることが肝要です。（これが難しい。）しかし、その根底には、子どもを思う「愛情」がこもっていることが大切です。残念ですが、親の愛情の深さに子どもが気付くのはだいぶ後になってからです。保護者の方々もそうではなかったでしょうか。しかし、それでいいのです。「押したり、引いたり」、「付かず離れず」、「絶妙な距離感」で思春期の子どもに接してみてください。親の真剣さや一生懸命さが少しずつ効いてくると信じてやってみてください。うまくいかないときは私をはじめ、本校ベテラン職員にぜひご相談ください。

でも、いつかは親はどこかで子どもから手を離さなくてはならないことをお忘れなく。（さびしいですが・・・） ずっと子どもを握ったままはだめですよ。

学校の様子



防犯避難訓練を行いました。佐賀北警察署からもお話をいただきました。



5年生教室での読み聞かせの様子です。物語の世界に引き込まれます。



3,4年生の名尾和紙体験です。和紙をすく体験は初めてだったでしょう。



3～6年はスケッチ会を行いました。どんな風景を描きましたか。

中学部養護教諭の産休代替として神武先生が赴任されました。

中学部の伊藤養護教諭が9月26日から産前休暇に入られました。代わりに神武加奈子先生が赴任されました。佐賀市にお住まいです。看護師としての勤務、佐賀市の小学校での養護助教諭としての勤務の経験をお持ちです。どうぞよろしくお願いいたします。

